

～新年度を迎えて～ 院長挨拶

岩手県立中部病院は、波乱の中で3年目を迎えました。

震災で被害を被った全ての皆様に心からお見舞い申し上げます。

当院は、幸い建物やライフラインの損傷が少なく、沿岸被災地の患者さん搬入に全力で当たりました。特に敷地内ヘリポートや花巻空港を経て、沢山のヘリ搬送を受けました。災害医療へのヘリの利用が一気に進みました。また、沿岸の基幹病院支援として、釜石病院を中心に職員を派遣しました。

本日が丁度震災後1ヵ月にあたります。これからは、中長期にわたる沿岸支援の仕組み作りに加わり、岩手県の、県立病院の医療の復活に向け、当院が担うべき役割をしっかりと果たしていきたいと考えています。

この間、3月17日には診療物資が少なくなり医師会の先生に助けいただきました。北海道の深川市立病院から救急車の提供を受け、職員の実家の熊本から10トン車で支援を受けました。その他にも枚挙の暇がないほど、多くの施設や沢山の方から支援を頂き、余震が続く中、1ヵ月間を乗り切りました。暖かい絆を感じました。

さて、改めて開院後の2年間を振り返りますと、地域の医師会の先生方のご協力で、当初に目標とした、紹介型、入院中心型、急性期型の病院に、予想以上に早く生まれ変わりました。紹介状をお持ちになって受診する事、コンビニ受診を控える事など、県や市町村の呼びかけに応えた、住民の皆様のご協力にも心から感謝いたします。お陰さまで、外来患者さんの数が減ったため、手術や検査等の治療に、午前中から多くのスタッフで当たる事が出来るようになりました。また、救急外来に関しては、患者さん総数は以前より少なくなる一方で、入院を要する患者さんの割合は上がり、重症な救急患者さんに沢山のスタッフで対応する事が出来るようになりました。地域周産期母子医療センターに指定され、地域医療支援病院にも認定されました。地域と共にあゆむ医療を更に展開いたします。

3年目の中部病院は、90名程のスタッフが増え、総勢870名ほどの仲間が船出しました。目標は、まず休床していた40床を稼働させる事です。地域の医療機関、福祉機関との連携にも更に力を入れます。それから、未曾有の震災からの復興の使命も追加になりました。職員一丸となり、患者さん中心の、患者さんと共にあゆむ医療を、安心納得の医療を推進し、目標達成に努力いたします。

本年度も宜しく願いいたします。

2011.4.11

岩手県立中部病院長 北村 道彦